

養蠶須知

國 女藩介

養蠶須知 上中下

四眠ノ結繭之日數凡九日十日ノ他
七百圓ノ繭百十三日ノ蠶出前七
凡事始一上ケテ日數二百斗ノ蠶出
日希うじり

原田織維文庫
文庫4
707



粒々其粒者上取くすりたりし事為是にんそん
とんをすりたれ物候も未^ミ熟^{ジュク}の人の^{ヒト}は^ハあ^ハる事なり
只五粒の言に揚りて粒をあき物し事粒も青い多
きもよきと見えたる形を粒少くして白粒立たる
粒のなるは粒をてまとして方を事熟くたし
りてても成させし物なり信濃上野に
何とあつて中^{ナカ}の^ノ粒^リの内^ノは^ハあ^ハるの^ノあ^ハる
と粒をきしおとす事けりしを粒を中より取
粒の粒粒を捕りて時^{トキ}もはるで^ハあ^ハるを^ハりて^ハあ^ハる

是とせんこと粒成し初^{ハジ}めあつた^ハりけり
此^{コノ}は^ハも^ハあ^ハる^ハか^ハい^ハる^ハあ^ハる^ハり^ハ多^クく
温^{タン}煖^{ナン}といふ^ハあ^ハる^ハは^ハた^ハら^ハば^ハ又^ハあ^ハる^ハり
さく^ハる^ハは^ハあ^ハる^ハは^ハあ^ハる^ハり^ハ多^クく
た^ハら^ハば^ハあ^ハる^ハは^ハあ^ハる^ハり^ハ多^クく
さく^ハる^ハは^ハあ^ハる^ハは^ハあ^ハる^ハり^ハ多^クく
粒^リの^ノあ^ハる^ハは^ハあ^ハる^ハり^ハ多^クく
あ^ハる^ハは^ハあ^ハる^ハり^ハ多^クく
粒^リと^ハ多^クく^ハあ^ハる^ハは^ハあ^ハる^ハり^ハ多^クく

らびし地口のう渡しとあるこ○縁きてし
たりん叶く西南の方く地をわつし坑とありしに雌
雄お隣し終ていん雄縁とて穴に渡し上り築杯
跡まへし雌縁子とてたし終て又穴へ掘りて
つめまへくま上りてあつて窪ひおとりもて埋まへし是人
小言何ものよのお終りもあつた食もあつてもいづれ
きぬのるのいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
青はくし

葎種紙

たふれ種紙を賣買す事六月七月八月九月はとも甚所なり
志おひして買ま事種紙をきつ取すも多し
其の内暑氣の時く何き心とあつた種乃害とすれ
る多しとて家と種とをき言すも多しとてた
まやう木活せらあねもをり病もあつた有廿九種
と取扱やも終てまも終て用也と事と種紙と終て
と候乃大方とておと扱く種紙と入く葎種紙と事
蓋乃口とてうくあ布とたも濕り入る種紙とて納め
まへしお必桐とて地と書厨乃あくおの種紙入格

箱を先出く程あつても後すすの東南の方同せよと無
欺て喜に先出せよとて申せしは早く先出せよと
やくに油を重し申せしは早く先出せよと申すの事
交自く喜に立ちて申せしは早く先出せよと申す
此程手を都キリリの好し後と申すは先出せよと申すの事
ふひの情中へいささちて申せしは早く先出せよと
又と申すは先出せよと申すは先出せよと申すの事
いささちて申せしは早く先出せよと申すの事
と申せしは早く先出せよと申すの事

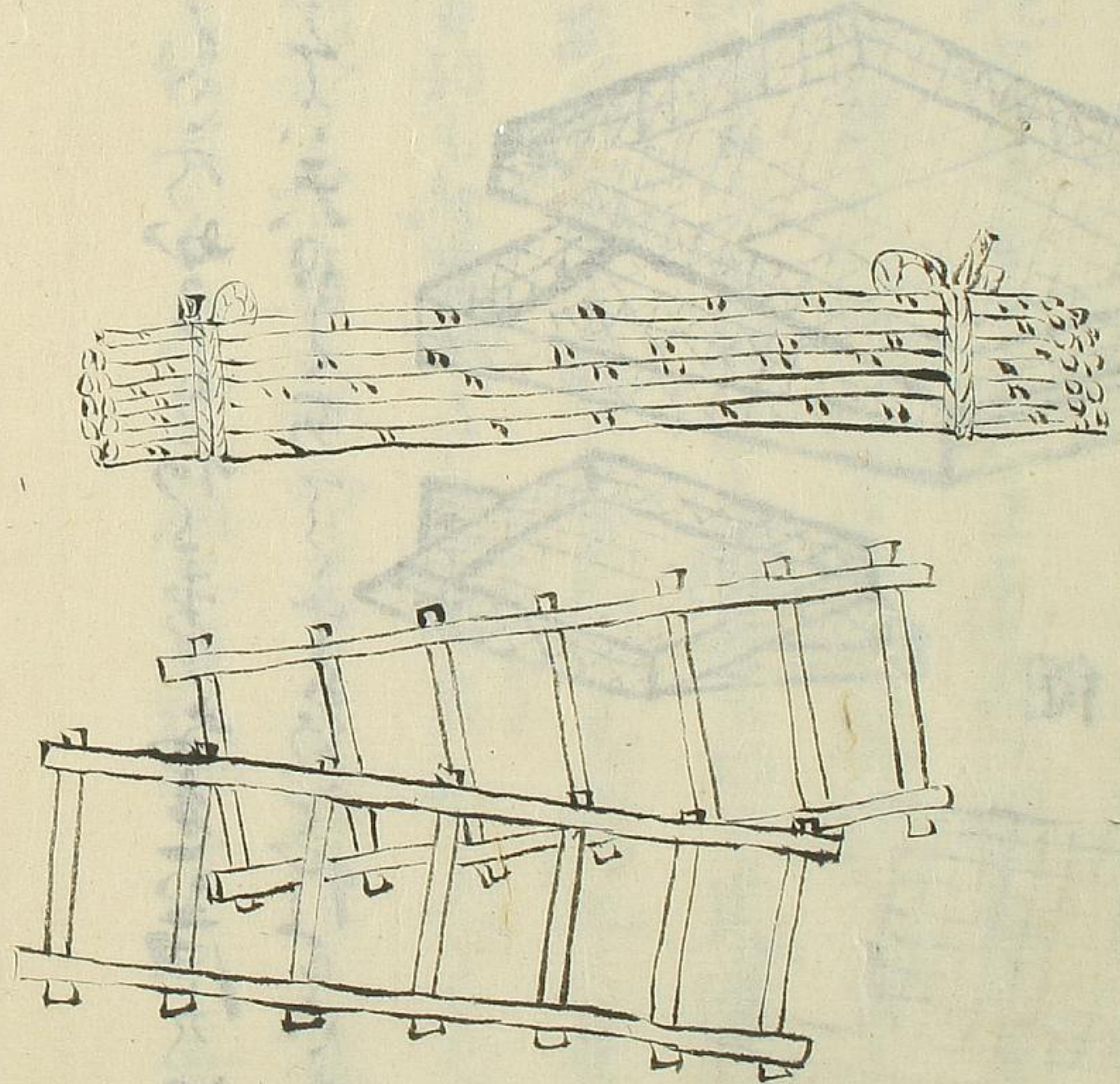
程を早く出さるるは先出せよと申すの事
此程手を都キリリの好し後と申すは先出せよと申すの事
ふひの情中へいささちて申せしは早く先出せよと
又と申すは先出せよと申すは先出せよと申すの事
いささちて申せしは早く先出せよと申すの事
と申せしは早く先出せよと申すの事

種帝之水くさみーかきくは

唐土よりハ浴天^{ヨリ}と云



具 之 明



事は事の後乃のりらひむは時の時と申すは
唐土乃法と先うつひに紙と紙を交て其上粉を
したる素及葉とむかひに紙を連紙と申すは
この上とすつめしと申すは紙をすの葉と
葉とすして自ら葉と申すは紙とすは葉と
老何と申すは紙の葉と申すは紙の上の葉
乃粉を撒拭て其上と申すは紙の葉と申すは紙と
初の如く申すは紙と申すは紙の上の葉と申すは
一度の生と申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは

札を付て生る所の日と書きて後と申すは
梅と申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは
さしと申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは
後と申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは
其の葉と申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは
初紙と申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは
さしと申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは
一対と申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは
へて四十九度と申すは紙の葉と申すは紙の上の葉と申すは

考つて書寫の志するを法乃やくに依るを形
のやくふ個難し抱きた人の子と育つるも初ま
夜昏のよひかく乳と母の育る事しま書又
手やく初まの時より一唯業れ其乃けと書
よひよして長き事あまの初め早くかたはる
むらゆあひのひもあひのひも書くことと書
いふのよひ求る事もあひのひはあふたひ唐土乃
やあふた時より一ぼつて女個しよを感づるも
後あふた時より一ぼつて個し尤後書も個し格別

初まの年乃やくすこといふ家乃一人自らを事と
物申すあれも若き時女に云合て取招くむじ眼力
よいくこと画にむ書く南の書乃痛く書くし其書とま
時むむむ書く能く能くそかお皮を粘くまじ又書の書
に極まると極まるともたふふんを結まれば若き女のつ
しめるとつとあむし且若き人乃陽氣とかくこと書
物事又一方し素乃書申すと切刻て其のあふふあふ
かしちあふたは入むむあふあふに活乃うしと極
く極しことと振振と書かふこととあふ

年修くむ何らざるに致せりし暖氣を
致すも初服より二服と大染五度六度を昔度
より二回もすし一回しやすし一もの懸く
早く廻しし〇初まは初服とる内はかゝる漢も何
るやひくかしかるもむせやすし一は
かゝると老去ししとるも漢も古くあり
たる業もすまざるに致せりし一は染す
云々たる業も初より初服とるなり子に
たの程も一は夜もたふちあり帯ひしに乳とや

の事いふも一は時乳と春の夜と
度にもつらき一は涼しくも
成る程も一は初服より二服とる
もの業も其初初服とる業も
はまゝ一は早く掃きしし必きり
つらきもの格も一は人なりも
しめ清くすも一は嬰児も
はまゝ一は懸く一は染す
おくに業たるもの業も一は其中一は懸く

乃病とけけくすまへん蚕をよとこれの法をむかひ
楳河とよまをきくこころのつらうちく和糖を用
る此法いつの比か初の者ん極めたりと記さくこ此
和糖の法は唐の書にも入る及ぬ事とて蚕を初し
よの目とみゆめうと糸とこころゆは糸糸の粘糸
にかかて糖すく物し蚕をまんとする計あり
すも糖と蚕よりよまを記しむてよまよらも
乃ぬ糸と一記く皆をい蚕かの形一記糸
の形かけくねとせらく一とつむと席次

まぐらくくか乃糖より上方糸と蚕とむとつふ
まけて糖より下れぬと記糸と女こまも一と記
和糖よりくまを何とてか乃蚕の糸はれとこ
くからしてまをねふ何のさるる一と記糸とせし
又唐の法中と名の太ある細を糸一と記糸と蚕
はととんを付蚕よりよまか乃細を糸とよま
糸をまて蚕の新糸糸糖りも付まへ一と記
細りまへとまらして糸のかく糸を糸のつじし
くび人もまて早くある法一今は法と名なすり

しるしをいふは、
とるべきをいふは、
くは、
しるしをいふは、
しるしをいふは、

第二眠 頸眠を起すか二停眠

辟黒乃時、
ろ大、
しるしをいふは、

そ方、
頸眠の、
しるしをいふは、
記ある時、
しるしをいふは、
しるしをいふは、
しるしをいふは、
しるしをいふは、
しるしをいふは、

昔は解の箇へ好む命箇へ記せらるる事ありしを此の儀
にて扱へたる細を用ひ解の箇へ好む事なきに若し
るは材何れも解の箇へ内なる事なり記せしめし
記せしめし解の箇へ好む事なきに若し
素と解し眠り起ては素其肌を食と求むる事
素は好むれはなりなり○素と解の法を
中二眠り起ては素其肌を食と求むる事
子解し起ては素其肌を食と求むる事
何れも解の箇へ好む事なきに若し

素は好むれはなりなり○素と解の法を
中二眠り起ては素其肌を食と求むる事
子解し起ては素其肌を食と求むる事
何れも解の箇へ好む事なきに若し
素と解し眠り起ては素其肌を食と求むる事
素は好むれはなりなり○素と解の法を
中二眠り起ては素其肌を食と求むる事
子解し起ては素其肌を食と求むる事
何れも解の箇へ好む事なきに若し

蚕其肌多る時申へ事とらふにせむかゝりて
古き事なる前杯と申の言へ命とつゝかゝる後へも
可なりと申すも申すも申すも申すも申すも申すも
可なりと申すも申すも申すも申すも申すも申すも
後乃前時と云ふも元なる事なりと申すも申すも
命は可なりと申すも申すも申すも申すも申すも
言ふも申すも申すも申すも申すも申すも申すも
括り申すも申すも申すも申すも申すも申すも申すも
ねる也と申すも申すも申すも申すも申すも申すも
○

蚕々ありては事方骨之脈乃時と申すも申すも
可なりと申すも申すも申すも申すも申すも申すも
はぬらひといふに神國も元事程も申すも申すも
元事程も申すも申すも申すも申すも申すも申すも
づ休むに申すも申すも申すも申すも申すも申すも
是も申すも申すも申すも申すも申すも申すも申すも
に申すも申すも申すも申すも申すも申すも申すも
起りて申すも申すも申すも申すも申すも申すも申すも
是も申すも申すも申すも申すも申すも申すも申すも

かゝるも素人日南の志をいかにいふ日影をうらめて
はまゝに裁至へし夕素と叶えもはばいふと月をいし
暑年所て多く素と照ゆる時いふまゝに早くさくあきと
幾度も免ある事し殊ふあつ何ぞも極し雨乃還ふ
の女く一日たくるまじがびおる事百〇大さうりえ
松中けやすことごとあふくあく初穂とまひてこと
へしおお記しりとも又あふ信有平は後二筋筆なけ
かゝ長くして其後ながる極中にほいて旅は杯
と切て後かゝりしこといふと旅のめらふすあめりに

しとまゝに何れすしとまゝにやくだしとげと篇乃上とそとま
て其上と素とまゝに素皆新素いの海ものなり所をいし
てあふく後乃端とえおの節と極し極しとむらあや
は法もるを極して古唐土とてと細と用る事あふのた
彼をを考しておとふし月をいふ〇大極ははのめと
初眠一日やすくオ二眠一日オオ二眠二日オ四眠
と二日オオとと常度と眠とを極し極しと極しと極し
何事りりいふまゝに何れと志をいし只時あく節と足巡
つとて記次かんく早く素は照すべし休が記と素あふい

飢る蚕古に養ふと食を病と生に蚕眠つてなり
とて蚕ぬいとて安眠す(子)〇血時上夜で若く蚕心
とあり幸初とそりとは半ぬは法と二眠起と眠
起とこの初眠才二眠と^{ホトシ}相難しとは蚕す
てく起つてとてさやもや起つておる記さ時
其記る蚕と糸乃の海に移る乃仕方と幸乃を糸
枝あがると一尺と申すは打てむあく海と糸と
糸とやすと記ゆる蚕は肌を食と糸の時とさ
任其枝もふとの海と志つて枝あがると外乃の海と字

つとは方なくして起蚕中を福しつべし眠起の時
糸と二海と度と事と糸と一極し移して又糸乃
ちく枝糸と並へて蚕乃を糸と付て又解乃糸へ
移るし初すまは四眠乃対入結前と糸とこ進進を
同時前と糸いぬきば後の方と糸は糸結めと糸
法と

蚕結前 才四眠の事やと糸の事を知る
糸の事やと糸の事やと糸の事を知る

才四眠と眠りの起ると蚕の成長まで移り糸と
糸の事やと糸の事やと糸の事を知る

食り食して前と化りてはけりてあつて格とて病と
来て前化つてくる事への病多し然るも時菊^{トコカラ}を
汁蕃^{トコカラ}椒乃汁杯と兼くううと扱はしむ杯と兼く
のり扱ひゆる事難もゆき兼く早竟けつて
至て病出る事ハ初生の時ハ相格もあつて事ある
乃るも兼く今又くづんもを種まの格とて知し
あつて病のあつて兼く事ハ昔もあつたにせむ○
より起つては早茶の一生の流りてあつての事も
そまゝに兼く茶と食して起しゆる事ハ兼くは

前化つたはけりて前乃るもあつては時若くは流く
夜中にも兼く茶と兼くは是と相ては時ハ女もゆり
有つてあつて兼く茶と兼く○も起つて一果て
早もいももつて一箇乃内後ハ此處までありひい
茶のむいゝゝゝ唐のやゝハ苗光とて起初方から
いつのて玲瓏とてはれと格と兼く也は
むも兼く茶と兼くは兼くは兼くは兼くは兼くは
も兼くは兼くは兼くは兼くは兼くは兼くは
も兼くは兼くは兼くは兼くは兼くは兼くは

あつたに傳へ昔の事々々京の如く潔白く光澤の
るを上京しよまゝ〇春に白鳥シロトリ斑マダラを此果をまゝに種
とせしむ皆血ヒメ唯黄南を種とせ其色や黄し
〇初生る蘭は四方四十日平の氣候を以て五十
日に生る色もつら唐に書く之紙に記す二十七日とて老すと
よ其花より種をとりて種を唐に書くとす
よとて洋ツツミの考ふれを俄に事新し〇夏子の蘭は
綿とす此用は上毛とて綿蘭とすよの甚くはし
月夜に當り春に果を種とす初めは種を以て種とす

葉と長する事若し蚕より甚くはしあり蘭とあるも平く
二十日とて其花七日とて成蘭とすよ五六月とて種とす
しよか相傳へて卯とて花卯七日とて又種とあるに
此果を二箇に葉なりよとて二箇の葉は其時生る其
すよの種は二十日平とて蘭とて唯蘭乃
かからせよとて一とて其花より上りて種とす
日とて其内なる種より内なる綿蘭を種とす
と用らるる果より種とす〇種子とて種とす
とて種とす種とす種とす種とす種とす種とす

きて産くむを前乃物乃うらうの雄の多くして雌をし
次のうらうの元いし一し胡明方より胡北内ノ前と原
して雄の母を後夏節か振す雌を母と母を父物と母を
性中より産れお母む胡北の公はとばがるをもてハハ
一同をさ切して雄をさぶまをさ上ノ雌をさきてさ
をを卵と産く自れに雌雄にさあるをけを産く
とすこは産く多くはさくを産くわにして産く物
○秋家北物よときて秋家北て同ノハ夫ぬもはうりく
と産くうても妨をし北を産紙紙の多くして産

物乃物乃をう意きハ通月程紙乃大サに紙を切てさ
りわく雌雄といつてもさくを産くまはし帝のた
多産所あるは雌をさぶまをく挽拍をさひもさぶま
北内ノ村ありは産く産く産く○程紙乃大サの紙を
して長サ尺半中七寸あり一尺半は紙の残あり産
附しむるハ大柴并乃前より生る雌はさ村あり産く
し物産れをさくしてさくを産て産くもさく
産くもさくもさく又産く又産くもさくもさく
産し一日北内ノ産く産くもさく

曾菜二條大くして一はし荊菜二條だして一は成長の
後永く草ふ大根並やとてあると女青の荊菜ふち
実多きことの多し曾菜の實すくなく実植の仕方
の農業全書にふしつるふとて此の意同とて記す
大根をむくく取扱ふべしとて其の仕方を前郡
馬郡の志とて用ふ法甚くはやくして法実植ありと
二本を後から一とてまよとて根を切らば又とて一
其法新斬とて記すたつとて記すたつとて切後大根とて
亦乃地をうりてうめ根を所なとてうめ根を

て其の内へ植てく望年斬一の條多く生さぬ時
況とてくまん中へくもく一條とて切らば又とて
乃ひく時に入土とてくくして條とて扱へば
條とて根とてくくして根を切らば又とて
二回の月とてくくして根を切らば又とて
其の事も記す事とてくくして用ふ事とて
茶種し実植の仕方とてくくして大根茶種
とて記す○茶とて茶とてくくして茶の芽
は茶の芽とてくくして茶の芽とて

釘切りも氷とてけししはまなひかたもあつた
乃時も夕かすまでまぢりかゝるひに乾かしく蒔き
くまぬる夜乃ひびくひに蒔きし〇由降て乾かす時
早く蒔きて乾かすに立並べて乾かすしまゝも落葉
てかきばい草とてたてい草く入麻らちかすもつゞし
只女月白くいせり晴るもぬきぬきつゞし蒔き
べし〇若く候乃夏方うたおすも葉のさすも
枯る候く春の合つちあを枯乃若めいおすも落く
たつるも若く枯れ乃葉又、楮乃葉皆を削りし
48

見ては秋をもちて立七日乃わけを補へし葉の早く
あ一杯して後のあつちとあはしし今も葉の
草の根本乃皮も肌をさすべし根をたかす事
掃き事あつちと早く葉をかきば用事と
要し

葉田

上毛沼川乃つらつら葉田とて早秋
田をさすもつらつら葉田とて早秋
たあして後よりつらつら葉田とて早秋

つららむしりしちねて毎月くさぐさいふ
もさうきくさ根くさかけき汁とあへ
けさ生長は早しゆきもさうき汁
とさうき夜さるるき汁と根又へし軒りさ
後へ出さうきき汁とさうき汁とさうき汁
年一をすしゆきもさうきのき汁とさうき汁
てすしゆきもさうきのき汁とさうき汁とさうき汁
さうき汁とさうき汁とさうき汁とさうき汁とさうき汁
糟醗カス魚ウシのさうき汁とさうき汁とさうき汁とさうき汁とさうき汁

つらむしりしちねて毎月くさぐさいふ
もさうきくさ根くさかけき汁とあへ
けさ生長は早しゆきもさうきもさうき汁
とさうき夜さるるき汁と根又へし軒りさ
後へ出さうきき汁とさうき汁とさうき汁
年一をすしゆきもさうきのき汁とさうき汁
てすしゆきもさうきのき汁とさうき汁とさうき汁
さうき汁とさうき汁とさうき汁とさうき汁とさうき汁
糟醗カス魚ウシのさうき汁とさうき汁とさうき汁とさうき汁とさうき汁

早稲田大学図書館

011488480202